

イザヤ書 第30章 15節 (神の懐へ)

普段の生活が脅かされ始め、それまで水面下に潜んでいた思いが様々なかたちで表面化する。流れる言葉、映される行動、それ等に反応する人々の流動が起こる。突然の出来事をなんとか手中に治めようと懸命に対応する。当然なことである。働きに感謝や好意を現わす者、他方非難や中傷に走る者たちも見え隠れする。手のほどこしようがない事態にあらがう人の痛々しい姿である。

それまで疲れ果てていた者の実態が、危機にあぶりだされ、潜んでいたこの闇がレントゲン照射される。死を前に脆弱な人の実態が露わになる。極めて身近なところで、日常に侵入し、日々繰り返し報告の名をもって突きつけられる。弱さ脆さ、日常の不確さのなか突然襲う非常事態下、見えない先に、ひたすら慌ただしく動く。

そこに、静まることを促すお方がいる。居るべきところで静まりなさいと呼ぶ。人の思い、行動を止めるよう招く。世界が荒海の如く泡立つなか、あなたに静まるよう促す。静まるよう神殿であなたに語る、主なる神の御声を聞き、語っておられるお方に出会いなさい。神殿の奥で呼ぶお方の懐であなたは静まりなさい。あなたはそこに立ち返り力を得る。わたしこそあなたの居場所だ。